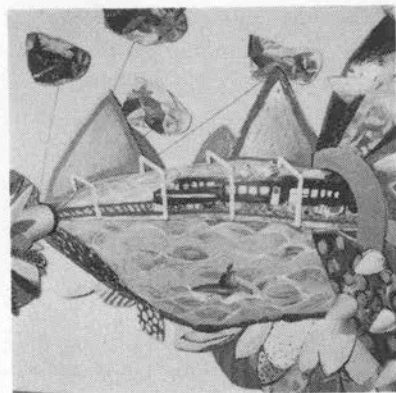


随 想



カット／杉山知子 “The Second Meeting” (部分)

10周年を迎えた

「アート・ナウ」

山脇 一夫

△兵庫県立近代美術館学芸員▽



毎年関西の現代美術を紹介する「アート・ナウ展」も今年で十回目を迎えます。ペテランから若手まで、本格派からもっとも新しい傾向のもので、分野も絵画、彫刻、版画といったオーソドックスなものから、ビデオなどの新しいもので、それに陶芸や染織など工芸の分野まで含め、さまざまな美術の分野における今日の美術の状況を知らせる、それが「アート・ナウ」です。昨年からは若手中

心の構成となり、今回も全員二十代、三十代の作家群で、若々しい感性のあふれる元気のいい作品を見せてくれるでしょう。

北山善夫は、つい最近開かれたバンガラデッシュの「アジア・アート・ビエンナーレ」で大賞を受賞したばかり。「ヴェネチア・ビエンナーレ」をはじめスイスやアメリカ、韓国などの国際展にも出品しているインタナショナルなアーティストです。細い木や竹の枝とさまざまな彩色された紙、皮や金属などを組み合わせて、空間に感性豊かな世界をくり広げます。銀行などの壁画も制作している栗岡孝孝は、色彩鮮やかな大きな画面にひし形を中心としたアラベスク模様構成しています。松井智恵と杉山知子は、キャンヴァスや立体の枠をみだして部屋全体

を作品とする環境的な仕事です。松井智恵は、染めた布、描かれた板毛皮、プリントされた布などさまざまな素材を壁や床に置き、それらが全体で有機的に統一され、見る者の視覚に訴えてきます。それらは日常のレベルから出発して象徴の領域へと導かれます。また、杉山知子は、ポップ調の絵が、キャンヴァスの枠をとり出して部屋一杯に占領するというものです。

果物や野菜、また彼女の身辺のさまざまな物が、アクリル絵の具の鮮やかな色彩で彩色されたダンボールの切り抜きによって組み合わされた巨大なイメージとなって構成されます。上谷朋子、馬場草香中島一平は絵画ですが、色彩豊かで動的な画面に現代の若い人の感性を奔放に表現しています。そして、村上明は、月の光を印画紙の上に写し取る月光写真ともいえる仕事を通じて、自然と人間との根本的な関わりを考えさせてくれる作品を作っています。塚脇淳は鉄の柱を曲げて構成する鉄の彫刻家。地面から背中を持ち上げた鉄の生物といった感じの作品です。龍田龍也は、太い木の枝をその形に沿って切り出したものを何十本も床に林立させた作品です。木の肌のみずみずしい裸木の林が会場に現われることでしょう。渡部慶二郎は独創的な機械ともいふべき

もので、機械のパーツもすべて手作り。できあがった本体も、パーツもそれぞれが作品です。その他、大久保英治(床の上の作品)、篠原猛史(壁面を版面作品で構成する)、

高原洋一(兵庫県立近代美術館賞、国立国際美術館賞受賞の版画家)、藤本哲夫(染色)、吉田和史(鉄を使った立体作品)が出品します。

また今回からは、前回の出品作家から選ばれた特別陳列の作家のうち、太田堯子(立体)、河添潤(立体)、佐藤慈男(立体)の三人の作品が出品される予定。これらの若手作家群による美術の現況を、パノラマできるものとして、大いに期待されるものです。

★アート・ナウ'84 3/3〜25
兵庫県立近代美術館にて

「まさか……。」

栄 由紀子

△神戸服装専門学校▽



受賞作品

「コウベ・ファッションデザイン・コンテスト'83大賞、栄由紀子」と読みあげられたとき、コンテスト審査会場で私は、あまりの驚きに、思わず「ウソ!」と叫び出しそうになりました。全く予期せぬ出来事で、ただただ緊張で呆然と

立ちすくんでしまいました。この大きな喜びの実感はこの日から何日もかかって味わったといってもよいでしょう。

デザイン画の入選通知を受け取ったときも驚きで顔が紅潮したほどで、今回の幸せはコンテストに参加できた喜びから始まっています。

このデザイン画に取り組んだのは、6月の中旬頃、募集締切の8月20日迄約二カ月かかってあれこれと20点ほどにまとめたものの一つです。キモノスタイル100%の感じのこのデザインは、素朴な紬の紺の縞柄と茶の縞柄のイメージで日本調田園風に表示しました。

このデザインは、私の好みと、私らしさが素直に表現できた作品だと思っています。入選出来る出来なを越えて深い愛着を持ったデザイン画が、参加数三千二百十九点の中から選ばれて25点の中にまず入選したことに感謝しています。

さて、作品の製作にとりかかって、まず第一にデザイン画どおりのキモノのイメージの布地を探すのに苦労がありました。神戸、大阪を足を棒にして一週間探し歩きやっと呉服売場でキモノ地を見つけたときの嬉しさも忘れられない思い出です。

製図、仮縫いでは直線裁ちの雰



喜びの筆者

囲気に重点をおいて、ムードのバランスに苦心しました。仮縫いはトワール(木綿地)で3回、本生地でも3回。上着、スカートの丈と分量は、丈を長くしたり、短くしたり、幅を広くしたり狭くしたり、何度もやり直して、衿、帯、ヒモと何一つ安心できない緊張感でグツタリとなつてしまふほど気を使いました。

縫製では、キモノ地の小幅ものをデザインにあわせて縫い目を感じさせないように縞柄を縫い合わせる苦労などがあり、縞の重なり具合の部分には特に神経を使いました。

製作に入って一カ月、やっと出来上がったときの嬉しさは、今までの苦労と疲れがスーッと消えていくような気持ちになりました。

審査当日、会場には、すばらしい作品がずらりと並んでいました私の素朴な作品などだんだん影が薄くなってゆくばかりで、自信を失くした私は複雑な気分審査風景を眺めていました。でも、「まさか」と思うような今度の大賞を受賞して最後まで頑張つて本当に良かったと思っています。

また、審査の水野正夫先生が、

「一本の線、一枚の布地にも無駄な構成がない」と私の作品を高く評して下さったことは大切にしたい、今後も洋裁専門学生として励んでゆきたいと思っています。

ワサブロー

―パリへの便り―

堀 郁子

ハシャンソン歌手

マロニエの枯葉が散り、パリも冬の訪れですね。ワサブローは、元気にシャンソンを歌いつづけていらっしやいますか。あのモンマルトルを、サンジェルマンデプレの石だたみを、細いしなやかな足取りで風のように飛び回っているのでしょうか。昨年はパリに行けませんでした。ワサブローを驚ろかせる事をどうぞお許し下さい。あんなに元気だったボクちゃんも、昨年の夏死んでしまったのです。甲状腺のガンが腰骨と肝臓に転移して、死を宣告されて五カ月で、二度と帰らぬ人となりました。

病院嫌いの彼女は、東京の国立ガンセンターに行った時はもうすでに手遅れでした。私は涙も流れない、血も凍るような思いでした。何とかして助かる方法はないものかと先生方をお願いしました。声がかすれて出ないボクちゃん、でも手術の時は元気でニコリしていました。四月、五月は東京に居



ありし日のボクちゃんと筆者（左）

てコバルトの治療など、一人部屋で寂しいといつて、どうしても神戸に帰るといって、無理にマンションに帰って来て一カ月、痛い痛いの毎日に、みるみるやせてきました。そして七月初めに甲南病院に入院、暑い暑い昨年の夏でした。でも何も感じる間がなかったのです。一日でも長生きしてほしい気持ちとその反対に一日でも早く楽になってほしい気持ちとが交差しました。

私は毎夜エトワでシャンソンを歌うことで生きて行けたのです。ボクちゃんの姿を想い出して泣いてしまったり、何を歌っているのかわからない日もありましたが何とか七月八日の風月堂でのリサイタルも好評でした。病院の窓からさす光をあびた苦しいボクちゃんの顔を見ながら、私も死んでしまいたいと何度思った事でしょう。とうとう水ものどを通らなくなって八月三十日の朝、帰らぬ人となってしまいました。でも息をひきとってから二十分ぐらいたっ

て、苦しみの表情は消え天使のような美しい顔、私は薄化粧をしてそっと口紅をつけてあげました。

平野の祥福寺の書院で二日間の通夜、九月一日、ものすごい雷神の中央堂で多数の僧侶の読経の中を昇天して行ったのです。きっと元気だったから死にきれなくて雷があばれて連れ去ってしまったのでしょうか。何事も演出する事の好きな人だったから自分の葬儀もすばらしい演出でした。

そして九月七日、国際会館ホールでの『音楽の家』堀郁子主催のシャンソンコレクションの日は何と、ボクちゃんの百カ日だったのです。ステージに祭壇をもうけ、メンバーが黒いドレスに菊の花束を持ち、また神戸での親しかった友人達がステージで花束を捧げてくれました。あんなに元気だったのに、といろんな方々が惜しんで泣いてくださいました。

神戸にシャンソンの輪をひろげたいというボクちゃんの情熱を私は持ち続け、シャンソンを歌い続ける事でしょう。

ワサブローもパリから里帰りしたら私とジョイントリサイタルをしましょうね。きっとボクちゃんは見守ってくれています。来年はまたパリで逢いたいですね。

注：ボクちゃんとは音楽の家の演出家戸田朝恵さんの愛称です。

濡れ着は破れ着になりやすい



袖を通した着物は
汚れのチェックを
万一汚れを発見したら
ニジシマへ。

ニジシマにおまかせください。



● サービス内容 ●

- 型くずれの防止 ●素材感の回復 ●お客様のお好みに合せた仕上
- カルテの作成 ●ファッション、クリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号
ヒューストン101 ☎ (078) 332-2440

Étranger

エトランゼ

エトランセたちに 愛されてきた
美しい港町 神戸
潮風に 髪をなびかせて
歩いた坂道
ふと出会った……
チーズサブレ——忘れがたい
そのデリケートな歯ざわり
異人館のある街 神戸



¥1,000

¥1,500

¥2,000

— 北 欧 の 銘 菓 —

ユーハイム・コンフェクト

本社 神戸市中央区熊内町1-8-23 ☎ 221-1164

△その54▽地方美術館への提言 美術作品の交流



本間 正義 △埼玉県立近代美術館館長▽

昨今、美術館建設ブームが続いている。ブーム以前には、美術館は建物のガラだけを作れば、あとはなんとかやれという考え方が支配的であったが、ブーム以降は、開館数年前から建設と平行するように、その中味である美術資料を収集して、開館時には、一応の常設展示が出来るということが一般化してきた。この先鞭をつけたのが山梨県立美術館であったといえるが、同館は億単位の金を投じて、ミレーの作品を購入し、これが人

気をよんで、今や観光ルートにも組み入れられるといった具合で、多数の観客を動員した。このことがひき金となって、その後に出てくる美術館は、開館前からかなりの高額の収集費を準備することが普通ようになってきた。

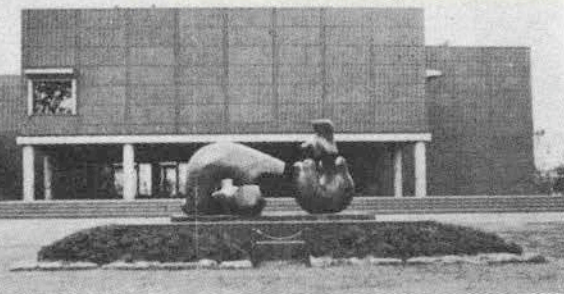
これは大変な進歩といえるのであるが、その反面、客を呼べる目玉商品としての一点豪華主義が起こってきて、その目標は、教科書に載っている西洋の名作ということが合言葉のように云々されて、印象派あたりの作品がねらわれるという結果になってきた。国立以外の公私立美術館は、博物館法によってコントロールされていて、大小の違いこそあれ、同型のタイプとして、同じような傾向を帯び易いのである。従って各美術館の収集も、往々にして競合状態をあらわし、その結果、作品の値上りをうながすという現象も起こってきた。必然的にこのことへの批判も高まり、目玉的名作指向の一律を避け、各美術館の地域的特色等に根ざした能率のいい収集を目ざすべきだということも、一方において主張された。

しかも建設のスピードに対する資料の絶対不足ということも考え

られ、博物館法によらぬ全く新しいタイプの美術館構想もささやかれている。それは県立、市立というより、もっと大きな広域的な視野で、中央資料館的なものを作り資料はそこで収集し、展覧会も組織する。一方、各要素都市等には展示館をもうけて、そこに組織した展覧会を巡回するといった考えである。これは展覧会経費の節約や、急ピッチな建設に不足し勝ちな学芸員の拡散する資質の密度をひきしめる便法になり得るかもしれない。

しかし、こんなことは実際には簡単に出来る問題ではない。そこで提言したいのは、各館の現在の収集の情報を迅速に交換し合って無理な競合や、それに伴う高騰を防ぐ工夫をこらすべきである。それにもまして美術館同士お互いのコレクションの貸借をできるだけ容易にして、通風をよくする必要もある。

もちろん移動等によって、危険になるもの等は、自ら制限されるべきであるが、それも出来る方策を構ずることで、流動的に考えるべきだということは、美術品というものは、多くの人々に鑑賞されることで、本来の意味の価値を生じてくると思うからである。美術館の場合とはもちろん違いが、個人コレクターの場合でも、ぜひこの考え方にそって、展覧会への出品協力を、願いたいところである。



美術館ブームを作った山梨県立美術館

詩心象

詩・安水 稔和
画・石阪 春生



ほいないそいな

雨あがりのぬかるむ底冷えのする
寒そうに人のゆききする神戸の町
を先皮のない高下駄はいて男が歩
いていく。昨日風呂屋の門先で見
た女の子のことを考えている。し
ゃがんでひとりで両手でジャンケ
ンしていた子。「布衣ない相な眼
付して／壁土の様な顔をして」(註)

時移り事去り土失せ光と音と物が
溢れる町で。寒そうに歩きまわる
人々の足もとに私は見た。あの子
が何人もしゃがんでいるのを。ジ
ャンケンもせず黙りこくってじつ
とひとりひとり並んで離れて。

(註) 賀川豊彦の詩「ひとり勝負」から。

賀川豊彦(一八八八—一九六〇)には四冊の詩集がある。

「ひとり勝負」の収めてある第一詩集『涙の二等分』には
貧困に苦しむ人々への熱い涙が満ちている。

●れんさいエッセイ

Wakakoの神戸はKOBÉ〈9〉

やすらぎの美

小原 稚子〈小原流理事・国際部長〉



絵／上尾忠生

訪れるたびに新しい感銘と印象を与えてくれる。あたかも新鮮な空気が、体内をさっと通っていくような清々^{すが}しさ。これが父に連れられて初めて訪れた少女の頃から今に至るまでの、私の奈良に抱いている気持なのだ。

アメリカに留学していた頃、私は日本の夢を何度かみた。木の間がぐれに見える浄瑠璃寺の雅びな塔。にぶい金色のしずまりかえった九体の並んだ仏たち。ものうい夏の陽ざしの中にしずもっている蓮池。早春の花冷えの中に凜と建ちつくしている寺そのもの——どれも祖国への郷愁であり、異国で思う日本そのものであった。

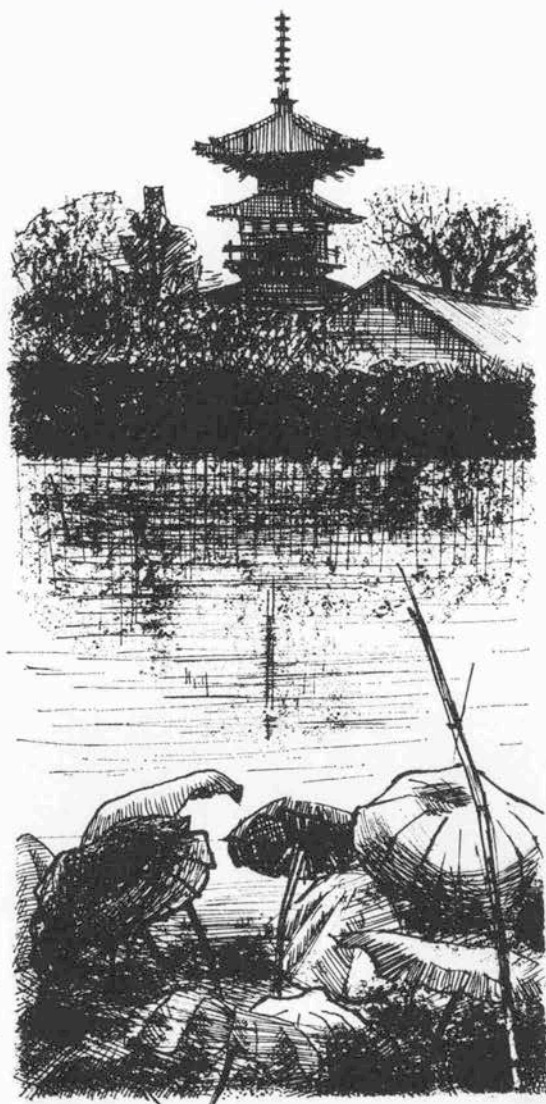
五月の雨あがりには、池のまわりの柔らかそうな土から水蒸気が立ちのぼる。新緑は黄に緑にマツスとなつて、あちこちでまぶしげにそよぐ。たつぷりと露をふくんだようなこんな景観が、私にとってほまさに「日本の」なのである。

薬師寺東塔を見上げる。

ゆく秋の 大和の国の 薬師寺の
塔の上なる ひとひらの雲

というのは、私の大好きなスケールの大きい佐々木信綱の一首である。背景にある遠くのものに眼を移すことによって、いっそう強く建築の完璧なまでの美しさがきびしくひらめく。ひとつの完成された美を正視し、そしてゆっくりと視線をはずす。そこに美の残像を味わう。大和ならではの楽しさではないか。

唐招提寺の門をくぐると、そこには浄境を完全なものにするための配慮がなされている。優れた構成に、いつも感服する。広い、まるで拭き清めたような白砂の空間の向こうに建つ金堂。雲の切れ間から陽がさすと、天平の霽^{はら}は美しく光り輝く。諸仏はもとより、この寺には天平人の気宇というべき壮快さがある。おおらかで大陸的でもいお



うか。

金堂の後の大扉にかすかに残る朱の美しさ。この洗朱の色は、まさに東洋の色である。往時の境域からは、はるかに小さくなっているにもかかわらず、現存している部分からでも充分に感じられる壮大さを前にすると、もし薬師寺や唐招提寺がなければ、奈良の風物ほもっと小味なものになっていたに違いないと思う。

強い風の吹き渡る平野の中に、一本の松と一基の石碑が建つだけの大極殿の跡に立って、遠く連なる低い山並を見渡すのが私は好きだ。奈良創建の頃、大極殿に坐った天皇は、雨や風や四周の山や、そして民衆の生活が実感できたであろう。

春すぎて 夏来るらし

しろたへの衣はしたり 天の香具山

持統天皇

選び、すぐられた真珠のように例えられる大和

の山々の自然の美しさを発見した天平の人々のに
ごりない目が、そのまま大和という土地を選ばせたのだろう。万葉集には驚くほど多くの山の歌が
記載されている。このことから、当時の人々は
自然と深く結びついていたといえる。

自然を深く見つめる。まさに我々日本人は自然
と密接に結びついて生きてきた農耕民族なのだ。
春にこぶしの白い花が咲くと種をまく時期を知る。
初秋に樹木が色づくくと刈入れをする。美しく
雄大な自然への信仰もめばえる。

自然を忘れ、自然から離れてしまった今の大部
分の日本人の生活。我々は段々と日本人でなくな
っていくのだろうか。

奈良を歩くとき、私の足もとに歴史がある。日
本の美しさを知る。日本人としての誇りを感じる。
そして何よりも、そこにはやすらぎがある。

映画発祥の地 神戸に夢の記念碑を

□出席者□

淀川 長治

△映画評論家▽

長島

隆

△神戸地下街株式会社副社長▽

東岡

茂

△兵庫興行協会常務理事・事務局長▽
△神戸興行協会常務理事・事務局長▽

嶋田

勝次

△神戸大学工学部助教授▽

三村

照雄

△神戸シネマハウス
△KOB E映画フェスティバル実行委員会▽

——国際港湾都市神戸は、貿易や文化、スポーツなど現代の日本人の生活を彩るさまざまなことからの発祥の地として、そこに記念碑があり数多くの行事が催されています。また、神戸っ子はそれらを大切にし、自分たちの生活の中に形をかえてうまく受けついで、さらに神戸らしいものへと生かしています。

かつて、明治29年、現在の映画の元祖ともいえるキネトスコープが日本で初めて上映されたのは、神戸の花隈にあった「神港倶楽部」でのこと。神戸の高橋信治氏が輸入したといわれる活動写真が一般公開され、ハイカラ神戸っ子たちに大きな感動を与えました。その後、戦前には新開地が娯楽の殿堂として栄え、映画の繁栄には目をみはるものがありました。現在、映画発祥から90年目にあたる昭和60年を目標に、その記念碑を建てようという運動が映画ファンのみならず、多くの人々の協力をえ

て、今や全国的なものとなりつつあります。今回は、神戸出身の映画評論家、淀川長治さんを囲んで、映画に関りの深い方々にお集まりいただき、積極的な意見をお願いしたいと存じます。

★神港倶楽部は日本の映画ファンの故郷

淀川 今日、私、はじめて神港倶楽部の跡地にあたる川崎重工保健会館へ行きましたが大変いい所ですね。花隈のダウンタウンで、昔、ここに神港倶楽部があったというのを思い浮かべただけで、きっと、素敵な社交場だったでしょうという気がします。このような環境で、明治29年に日本で初めての活動写真が上映されたということは、われわれにとっても非常に嬉しいことです。

アメリカではニューヨークのニュージャージーが最初に映画が上映された土地なのですが、そこにはまだ映画



三村 照雄さん



嶋田 勝次さん



東岡 茂さん



長島 隆さん



淀川 長治さん

発祥の地としての記念碑はありません。私は、初めてアメリカへ行った時、第一番目にそこへ連れて行ってほしいと申しまして、行ってみたら、記念碑的なものは何一つないんですね。何か、それらしいものがきくと見つかるはずだと思ってたんですが、何もありませんでした。何だか、とても寂しかったですね。今回、シネマハウスの三村さんたちの呼びかけによって、映画発祥の地である神戸に映画記念碑を建てようという運動は大変、嬉しいことです。神戸は私の故郷でもあり、今日、訪問しました神港俱樂部跡地をみて、私も勇気づけられました。長島 私も淀川先生のお言葉を伺って、とても頼もしい気持ちです。というのは、私が映画ファンとしての洗礼をうけたのは、何といても淀川先生の影響でして（笑）神戸三中に入学した一年生の時から熱烈なファンとなっていて、今でも憶えているのは、ジョン・フォードの「肉弾鬼中隊」です。これからもう病みつきで、学校を休んでも映画へ通い始めたんです。「バラは何故赤い」とか、神戸で観ると学校へわかってしまいうので、大阪の心斎橋まで出かけていき、弁天座で観ましたね。

嶋田 私は大学生になるのを待ち焦がれていて、大学へ入ったとたん、「駅馬車」などを観にいききました。

東岡 私の頃には、映画といえば新開地しかなかったんです。裏通りをすりぬけて、昔のアイスクリーム店の前に「朝日館」というのがありました。それに「有楽館」があつて、私はよくそこへ通いました。そこは入りやすかったし、出るのもやすかった。冒険に近いような思いで観ましたね。当時はまだパトトキーでした。

淀川 昭和4年にトキーになりましたが、私は長い間サイレント映画を観ていたでしょ。ところが、トキーになって、ゲリー・クーパーが、「この野郎、出て失せろ！」なんて言う、バグマンなどを長い間、日本語で観ていたのが、トキーになると、いきなり、アイラブ・ユー、アイ・ヘイト・ユー、ゲッタ・ウェイ！なんて、突然、喋り出して、私は「ああ、西洋人だったの

か」と、思いました。全然、英語なんて、この人、言う人じゃなかったのに(笑)、と思いながら、本当にびっくりしましたなあ。

嶋田 私は戦後の大学生時代、2本立て、3本立ての頃ですから、ずいぶんと違いますね。

淀川 どこでご覧になりましたの？

嶋田 三宮神社のそばの三宮キネマです。洋画がたくさん観られました。

淀川 そこでしたら、万国館というのもありましたね。

東岡 歌舞伎座というのもありました。

淀川 もともとは、相生座というのが楠公さんのそばにありました。それがショーの発祥地だったけど、湊川が埋め立てられて、新開地ができてから、相生座もみんなが新開地へと移っていったわけですね。それから、いわゆる新開地の黄金時代を迎えることになります。大正の、それはもうけんらんたる賑わいでしたな。

東岡 夜の新開地といえば、看板が軒なみ並びましたね。実にみごとなものでしたよ。

長島 私は、看板をながめながら、どこに入ろうかというのが、楽しみでした。

淀川 実に魅力ありましたね。それでね、看板にもごひいきというのがあるって、朝日館は誰々、キネマ館は誰々というのが風情ありました。

東岡 看板には、油絵とどろ絵とがあって、油絵は洋画日本映画はどろ絵というふうに決まっていました。

長島 昔、「新映画」という雑誌がありましたね。あの雑誌には面白い似顔絵が載っていました。

淀川 あれは、伊藤竜男さんという人が描いてたんです。この人はニューヨークへ渡って、アメリカ仕込みのパステルタッチを覚えて帰国しました。アメリカ仕込みだから当時としては、似顔絵のまっぴりもきれいに描かれていて、「新映画」創刊第一号の表紙がグレタ・ガルボでした。それから「スター」、これもきれいな絵でしたね。今でも見劣りしないです。

長島 私は、その「新映画」という本が大好きでして、面白かったのは、ファンの投書欄がありまして、ゲリー・クーパーの好きな人は、ゲリー・クーパー・Jr.、なんていう筆名で投書したり、中国との戦争が始まって戦争にとられた兵士が、戦地から投書をしたり、さまざまな想い出がありますね。

淀川 私、それで、大変、いいことを思い出しましたよ。私は「新映画」に入社したかったですけど、入れなくて結局は「映画の友社」に入りました。「新映画」はとてもハイセンスな雑誌でしたので、私は憧れていたんですね。というのはこの雑誌の読者が、ものすごく粋でおませでした。そして、センスが抜群にいい、読者は、みんなそれぞれに、ゲリー・クーパー・ジュニアとか青森の黒猫とか、洒落た名前を考えて投書してくるんですよ。

私は3つペンネームをもっていて、ジョージ・バンク・ロフトとか他は忘れちゃったけど、読者が投書欄で自分の好きな俳優に片入れて、いい意味での喧嘩が実に楽しい雰囲気でさかんにされました。6ページぐらいのポリウムでしたが、本当に楽しかったですね。

それから、非常に面白いことには、その当時、投書欄の常連だった人たちが当時が懐しくてたまらないという話がありまして、それではみんなが集まろうということになって、いつのまにか小さな集まりができたんです。

そして4年ぐらい前から、定期的に集まる立派な会になったんですよ。その会には、長島さんの今、おっしゃったゲリー・クーパー・ジュニアとか、コロンビア

誰それといったペンネームの方が、みんな集まるんです。みんなおじいさんやおばさんになっていて、入れ歯を洗いながら懐しの映画青春を話しています(笑)。それはそれは、とても楽しい雰囲気です。でも、みんな若いですね。

東岡 映画を好きな人はいつまでも青春だといえますねだから、みんな若いでしょう。



明治29年、花隈にあった神港倶楽部

★映画フェスティバルの成功を機に映画記念碑設立を、三村 映画フェスティバルは、ポートピア'81の年から始まりまして、昨年で3回を迎えたわけです。私はその一員として末席を汚しているわけですが、映画フェスティバルが行なわれるようになる前には、その前身として、神戸の映画ファンクラブという組織があつて、8年ぐらいい前からいろんな自主上映活動をしていたんです。ポートピア'81には、宮崎市長が、これは市民のみんなのお祭りだとおっしゃられたんです。そして、僕は映画が好きだから、映画でみこしをかつぐというか、参加しよ

うということになったんです。

その頃から神戸が映画の発祥地であるということはよく知ってはいたんですが、映画フェスティバル実行のバックボーンにはそのことが僕らを勇気づけてくれたし、これを機に映画記念碑を建てようという意気込みが生まれ、映画ファンの団結でこれに積極的にとりくむ機会をようやく3年目で得たというのが、僕らの思いです。さきほど、淀川先生から神港倶楽部のお話が出ましたが、僕らもこれからもっと勉強していききたいと思っています。

淀川 神港倶楽部でキネトスコープが初めて上映された明治29年当時、入場料が60銭ですから、現在の1万円どころの金額じゃありません。それでも会場は超満員になったといえますから、神戸の人というのは外国の文化に對して、どれほどの好奇心をもっていたか、そして感受性が豊かだったかということがわかります。値段が高くても外国文化を吸収するためにはお金にこだわらない、という神戸のぜいたくな気質はとっても素晴らしい。これが神戸がハイカラという故なんでしょうね。

そしてまた神港倶楽部は、大社交場でもあったんですね。1896年、つまり明治29年にこんな素晴らしいものが神戸にあったのだということは忘れてはならないことです。

三村 これから約2年後、つまり昭和6年には映画が初めて上映されてから、ちょうど90年目にあたるわけですが、これを目標にいろんな人たちに応援していただいて、記念碑を建てようと考えているわけです。しかし、全国の映画ファンの協力が得られて初めて実現できる遠大な計画でもあります。一方、映画の歴史的な資料を調べてみると、発祥の神港倶楽部のことがあまり研究されていません。たとえば、神港倶楽部の中の写真すらも見つかっていないんです。そこで、僕ら映画フェスティバルのスタッフも一生懸命に勉強して、神港倶楽部の記念碑が建つと同じに一冊の本をつくりたいんです。現在もあちこちへ取材へ行つて、当時、神港倶楽部へ行つたことが

あるという人たちのお話を伺ったりしています。

また、映画フェスティバルを年毎に充実させながら、2年後にむけて、神戸映画史展をさんちかギャラリーなどで開催したいと思っています。そのためには、淀川先生にも、新聞地などの資料をお借りしたり、いろいろとお知恵を拝借したいと思っていますのですが……。

淀川 力善さんや荒尾親成さんなども資料をおもちだと思いますよ。

長島 映画のプログラムも貴重な資料ですね。

三村 記念碑のカンパについてですが、同意書に名前を記入してもらって募金箱に入れていただいています。多くの人たちに寄付してもらうわけですから、何かの形でこういった人たちの名前を残したいんです。たとえば石碑に募金協力者の名前を刻むという方法もあります。スタッフが話したところでは35ミリのフィルムに全部の名前を撮って、そのフィルムを記念碑の中に納めたらどうだろうと考えているんです。映画ファンがフィルムに名前を刻むというのが、ファンらしくていいんじゃないかなと……。

淀川 「スター誕生」という映画で初めてカラー作品になったのですが、この監督は非常に宣伝のうまい人でもあって、このプリントはハリウッドの地下何メートルとい



映画記念碑の募金をする淀川さん

う所に埋められて、100年経たなければとりだせないんです。つまり、研究材料として保存するためで、現在もとりだせないわけです。そこには記念碑が建っているんです。嶋田 せっかくですから、募金者の名前だけでなく、現在の神戸の姿をしっかりと同じフィルムに納めて、記念碑に入れるべきですね。それに石碑は、神戸の御影石を用いるなんていうのも神戸らしさが生かされていいです。淀川 100年経ったら、昔、こんな自動車が神戸を走っていたのか、と大笑いするかもしれません。

長島 スペースに左右されるかもしれませんが、神戸の彫刻家の手でユニークなものが生まれるといいですね。淀川 そうです。大きいものより、洒落たものの、粋で神戸らしいハイカラさが出せたら素敵ですね。

東岡 神戸市長も映画ファンだから、神戸市の協力もきっと得られるはずですよ。

長島 映画のモニメントらしいものであると同時に、神戸の街のシンボルとなるような記念碑が望まれます。三村 映画の発祥地である神戸に建つ記念碑がどのような形でつくられるかは、今後、応援してください。みなさんのいろんなご意見をもとに、もっとも神戸にふさわしい素晴らしいものをと考え、少しずつ具体化していくことになりそうですが、おかげさまで淀川先生をはじめ多くの方々のご協力とご理解をいただくことで好調なスタートをきることができました。

昭和60年の12月1日設立を目標に僕ら映画フェスティバルのスタッフ一同頑張りたいと思っていますので、一層の応援をいただきたく存じます。(文責/編集部)

□映画発祥地神戸に記念碑を建てる会
事務局 月刊神戸っ子編集室

〒650 神戸市中央区東町113の1 大神戸ビル9F

映画記念碑係 ☎078(331)2246

または、シネマハウス ☎078(331)4090

□みなさまの心あたったかい募金をつります。

募金振込先 太陽神戸銀行 本店

(普通口座) 301-3440592

田崎真珠㈱

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

オールスタイル㈱

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区伊藤町 12-1
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー㈱

取締役社長 稲岡 必三
神戸市中央区三宮町 1丁目 9-1-807
センタープラザ東館 8F
TEL (078) 392-2101

㈱ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市中央区三宮町 1丁目 10-1
TEL (078) 332-3155

モロゾフ㈱

代表取締役会長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町 6丁目 11番 19号
TEL (078) 851-1594



経済ポケット ジャーナル

★ジャヴァ完成

ファッショントウンに
アパレルのジャヴァア
ルの新本社ビルが2月に
ポートアイランド・ファッ
シオントウンに完成、2月
21日には業務を開始する。



ジャヴァ新本社

敷地面積6680平方
建築面積2409平方
鉄筋14階建て。1階の一部
はカフェやレストラン。同
階の残り2階は配送・物
流、3-5階商品倉庫、6、
7階ロビー・ショールーム
8-12階はオフィスの予定
2月15日には新社屋見学
会、パーティー（ポートピア
ホテル）も催される。

★港都神戸に定着

神戸国際輸入見本市
ミナト神戸ならではの催



しとして定着した感のある
神戸国際輸入見本市（イン
ポートフェア）だが、今年
も2月24日-27日、神戸国
際展示場で開かれる。

13回目を迎えた今回は、
カナダ、デンマーク、イン
ドなどの初参加国も含めて
13カ国16機関が出品する。
「年々人気が上がっている



好評だった昨年の見本市

ので入
場者5
万人、
取引金
額2億
4千5
百万円
の昨年
の実施を

上回るはず」と神戸市経済
局貿易観光課ではみてい
る。また市民も参加の大バ
ザールやシンガポール旅行
の抽選会もある（入場無料）
★ポーアイのワールド記念
ホール新工法で目見得
ポートアイランドにむっ

くりと現われたドーム——
'85神戸ユニバーシアード大
会に向けて建設中のワール
ド記念ホール（仮称）の工
法が建築関係者の注目を浴
びている。



大屋根があげられた同ホール

これ
は地上
で組み
立てた
大屋根
を油圧
ジャック
で段
階的に
押し上げるもので、電車の
パンタグラフにちなんで
「パンタドーム工法」と呼
ばれる。同工法採用は世界
でも初めて。昨年12月14日
に最後の押し上げが完了、
高さ39メートルの同体育館の全容
が目見得となった。
全館完成は来年7月。

★KOBEOフィスレディ★



石原 由佳さん(22)
ハサップポロビル神戸営業所V

「高校を卒業していきなり社会人になる
自信がなくて、服飾の専門学校に行きま
した」。消極性、内向性ゆえに、ちょっ
とモラトリアム。それがよかったようで
「この会社で楽しく庶務の仕事をしてい
ます」。書道は師範。男性は寛容でグイ
グイひっぱってくれる人がイイとか。俳
優では淡い若林豪さん。垂水区在住。



謝辞を述べる
坂下保太氏

れからも医療に貢献した
い」と謝辞を述べ、万雷の
拍手を受けていた。

★坂下保太先生藍綬褒章
受章祝賀会
昨年藍綬褒章を受章した
兵庫県学校歯科医会副会長
の坂下保太先生の受章祝賀
会が昨年暮れの12月17日午
後、神戸ポートピアホテル
で開かれ、関係者約500
人が参加した。

同席であいさつに立った
鹿島弘兵庫県歯科医師会会
長は「先生は口腔衛生思想
の普及、休日の身障歯科診
療事業の推進などに尽力し
てこられた。敬服に値する」
と祝辞を述べた。坂下氏も
「まことに光栄の極み。こ



LÖWENBRÄU



(ドイツが生んだ世界のビール)

レーベンブロイ

生 で 新 登 場

この一滴に、
ニッカの
総てをこめて。



●写真左より、キングスランド5000円、スーパーニッカ3400円、
フォーチュン'80 10000円。(いずれも標準小売価格です)

ニッカウヰスキー